

第Ⅲ章 奥沢水源地の現況と課題

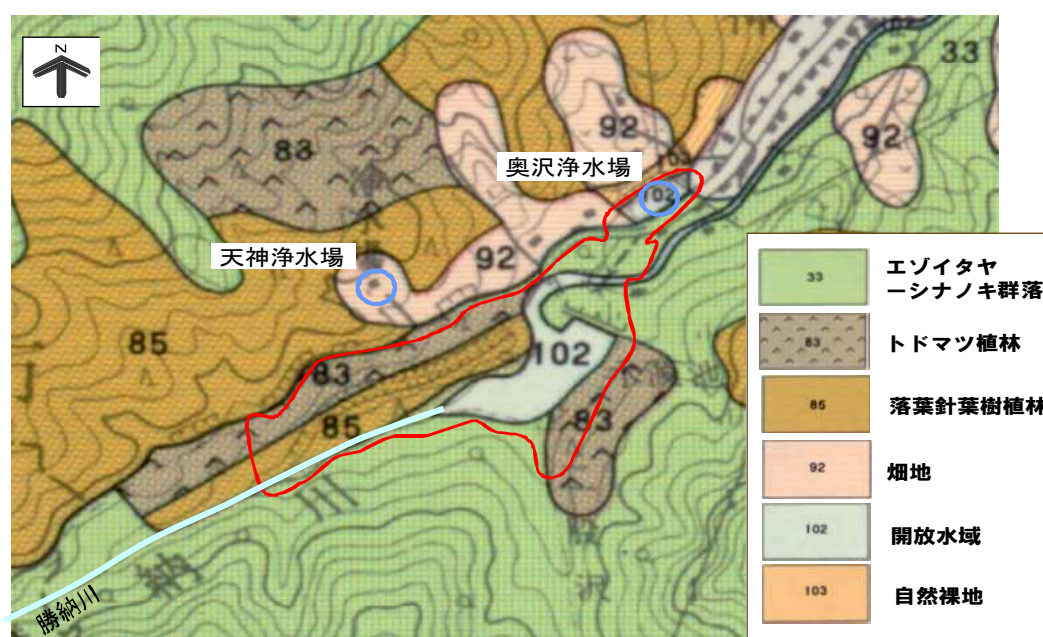
1. 奥沢水源地の現況

「奥沢水源地」の持つ特性を把握するため、植生や鳥獣保護などに関する自然環境、地形や景観資源に関する土地利用、上位計画などに関する関連計画を整理します。

(1) 自然環境

① 植生

「奥沢水源地」は、貯水池南側に落葉樹（エゾイタヤ等）が群落しており、初夏の新緑や秋の紅葉など、良好な景観が望めます。

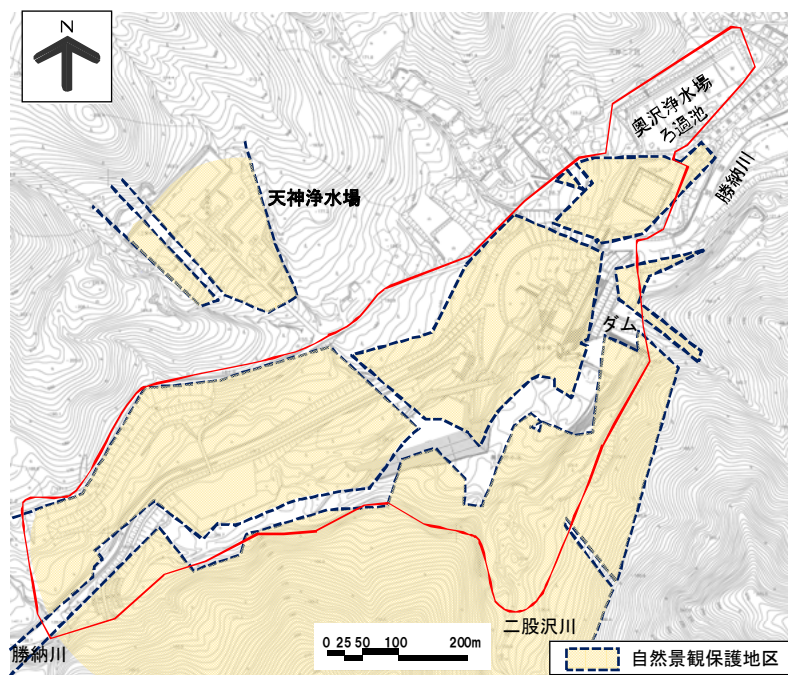


出典：環境省発行植生図

《奥沢水源地周辺の植生図》

② 自然景観

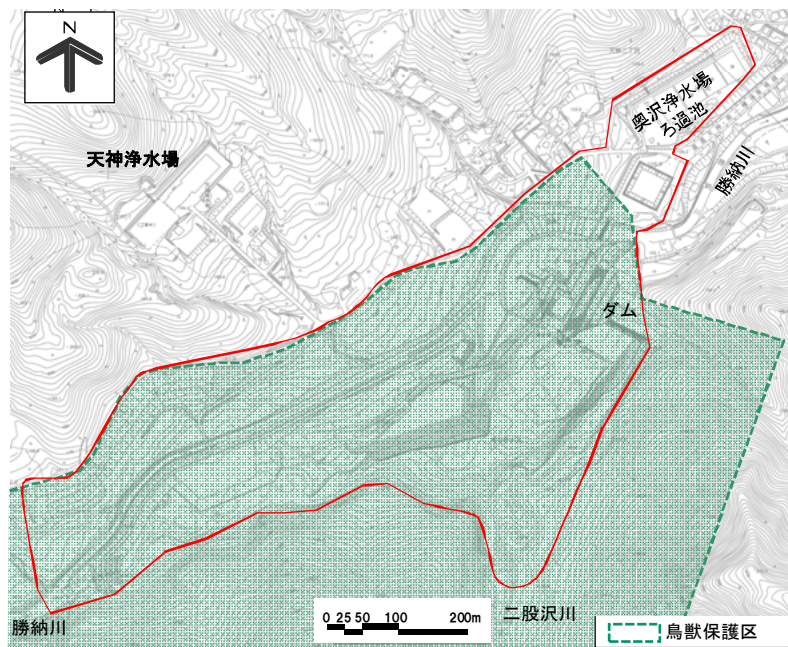
「奥沢水源地」は、良好な自然景観地として保護することが必要な地区として、自然景観保護地区¹に指定されています。



《自然景観保護地区》

③ 鳥獣保護

「奥沢水源地」は、野生の鳥獣の生息地として、鳥獣保護区²に指定されています。



《鳥獣保護区》

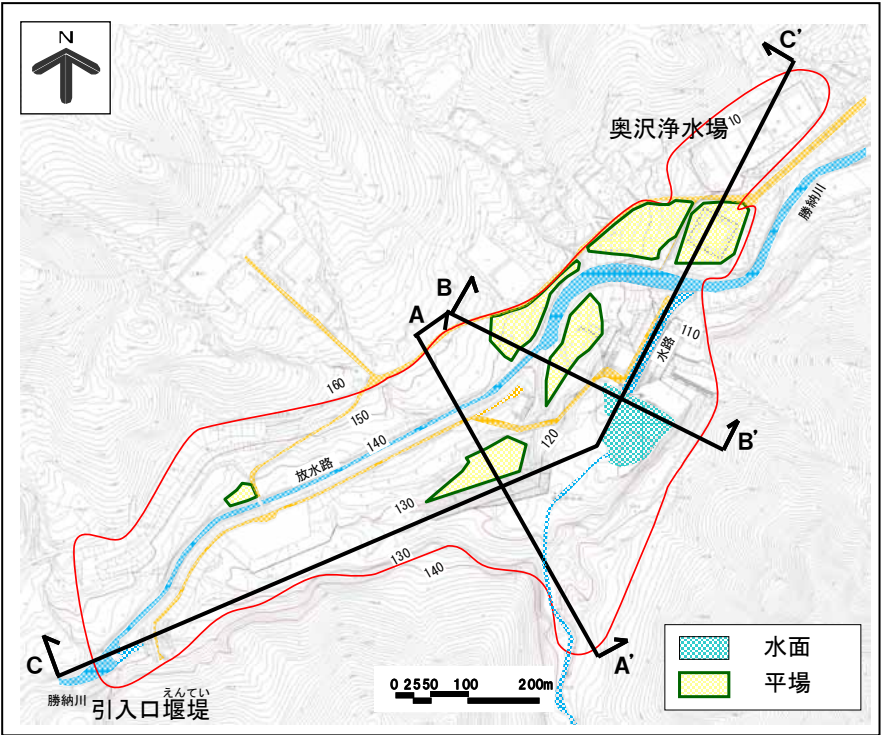
¹ 自然景観保護地区とは森林、草生地、山岳、丘陵、溪谷、湖沼、河川、海岸などの所在する地域のうち、良好な自然景観地として保護することが必要な地区です。

² 鳥獣保護区とは「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」に基づいて指定された区域であり、原則として鳥獣の捕獲は禁止されています。

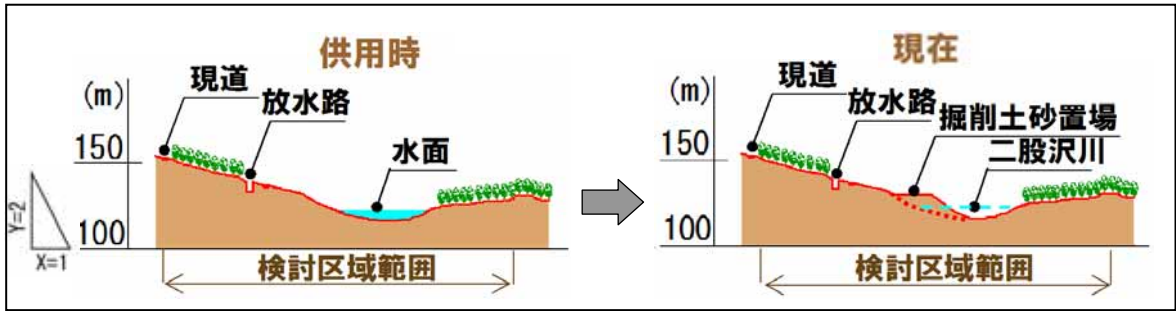
(2) 土地利用

① 地形

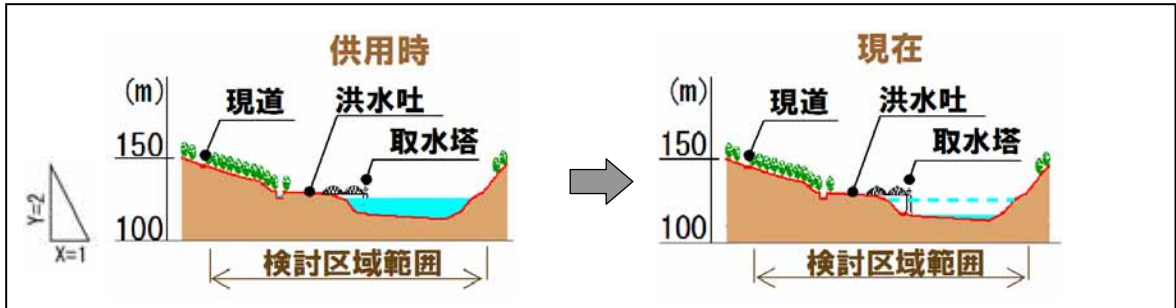
「奥沢水源地」は、起伏に富んでいるものの、ダム堤体を掘削した土砂を置いた場所などを活用することで、まとまった平坦地としての利用が可能となります。



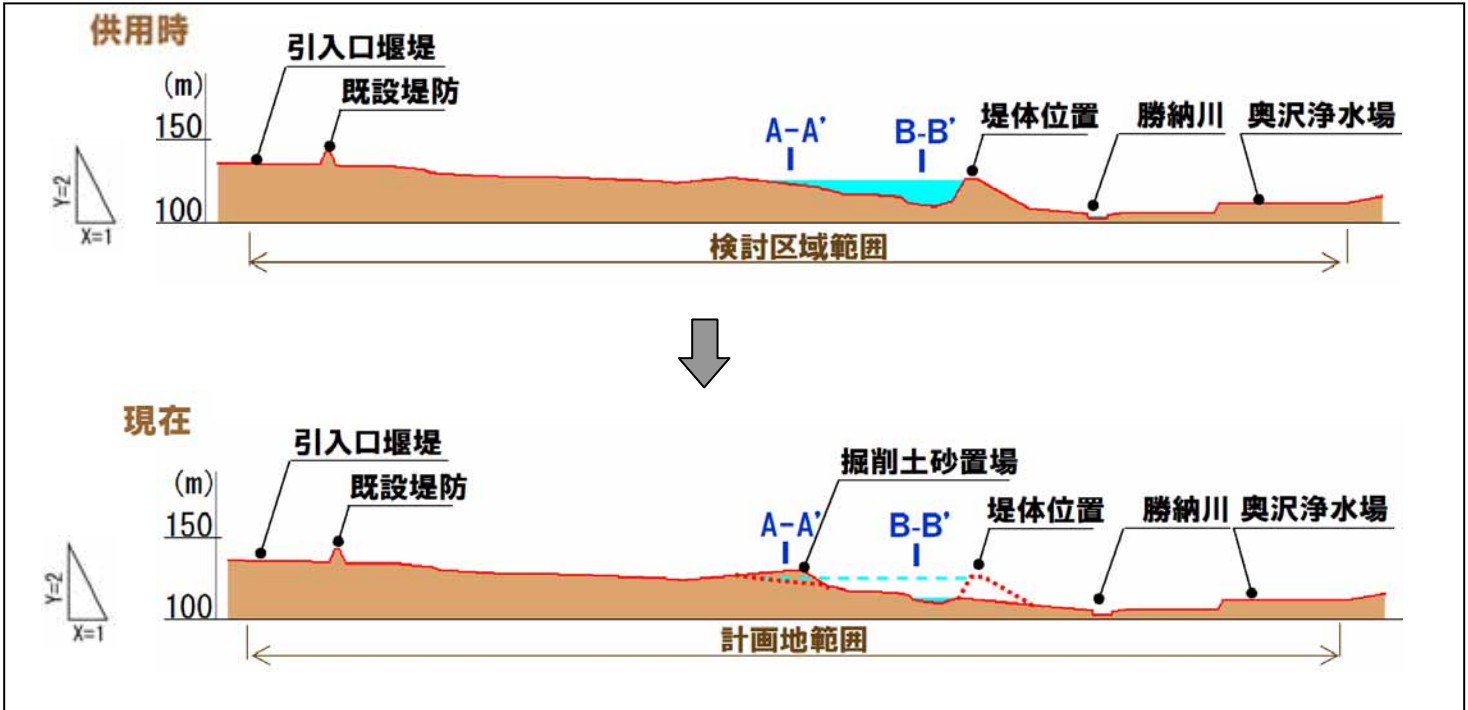
《現況地形図》



《A-A' 断面図》



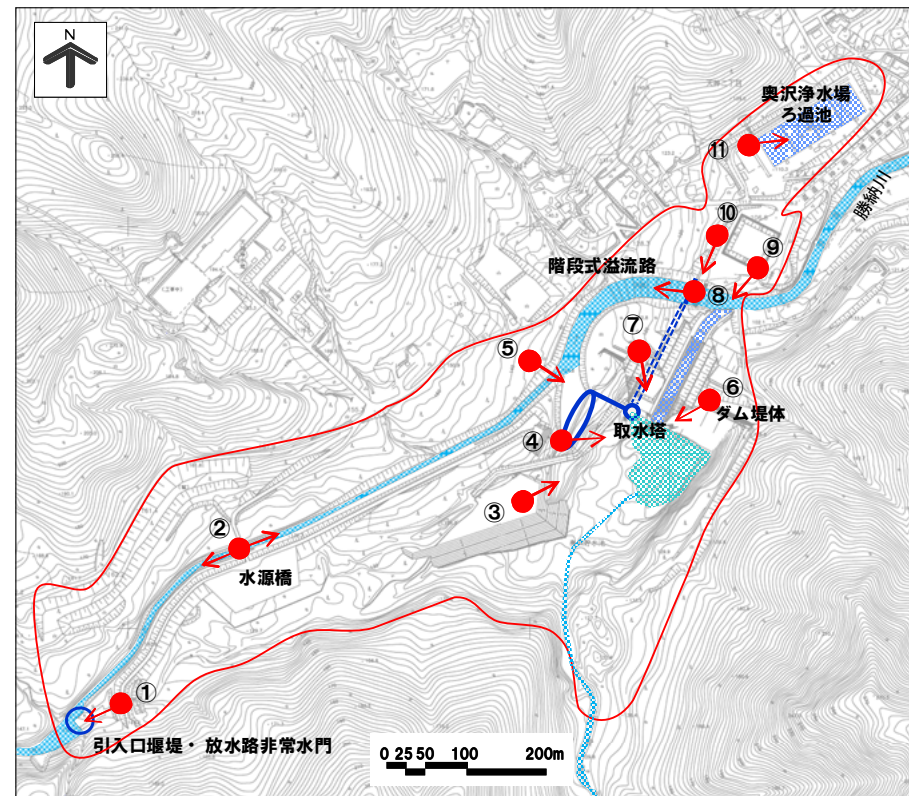
《B-B' 断面図》



《C-C' 断面図》

② 景観

「奥沢水源地」は、階段式溢流路^{いつりゅうろ}や取水塔など創設水道施設としての歴史的資産や川や樹林などの自然景観を望めるビューポイントが多く点在します。

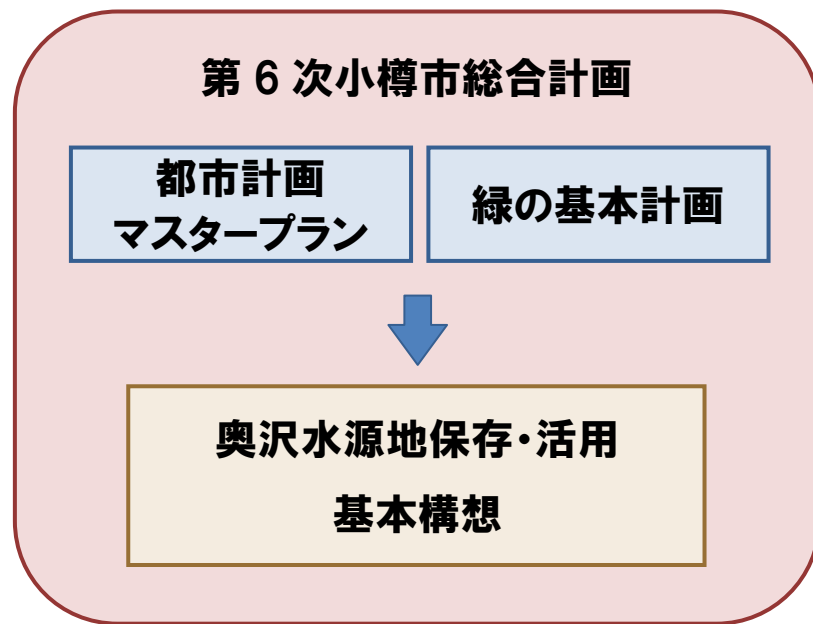


《奥沢水源地のビューポイント》



(3) 関連計画

「奥沢水源地」の保存・活用にあたり、「第6次小樽市総合計画」や、それに基づく「都市計画マスタープラン」、「緑の基本計画」での位置づけ及び「都市計画法」や「北海道新幹線 新小樽（仮称）駅周辺整備構想」などの計画を踏まえて検討します。



《関連計画の体系》

① 第6次小樽市総合計画

○ 計画期間：平成21年度～平成30年度

○ 将来の都市像

「歴史と文化が息づく 健康、にぎわい、協働のまち」

○ まちづくり5つのテーマ

1. 心豊かに学び、地域文化をはぐくむまち 〈生涯学習〉
2. とともに支え合い、安心して健やかに暮らせるまち 〈市民福祉〉
3. 安全で快適な住みよいまち 〈生活基盤〉
4. 人・もの・情報が交流する活力あるにぎわいのまち 〈産業振興〉
5. 自然とまちなみが調和し、環境にやさしいまち 〈環境保全〉

② 都市計画マスタープラン

○ 計画期間：～2010年代後半

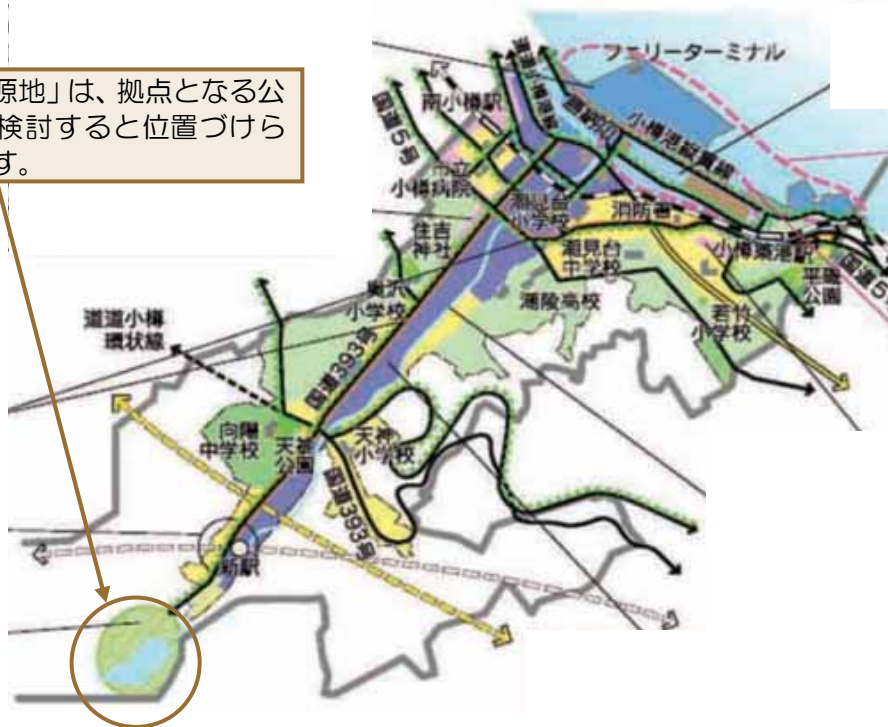
○ 将来の都市像

「未来と歴史が調和した 安心、快適、躍動のまち」

○ まちづくりの3つの基本方針

1. 自然を大切にし、歴史を育むまち 〈環境と調和する都市をめざして〉
2. 活気あるまち 〈活気ある産業・交流都市をめざして〉
3. 安心して快適に暮らせるまち 〈安全で快適な都市をめざして〉

「奥沢水源地」は、拠点となる公園緑地を検討すると位置づけられています。



《都市計画マスタープラン・南小樽地域》

③ 緑の基本計画

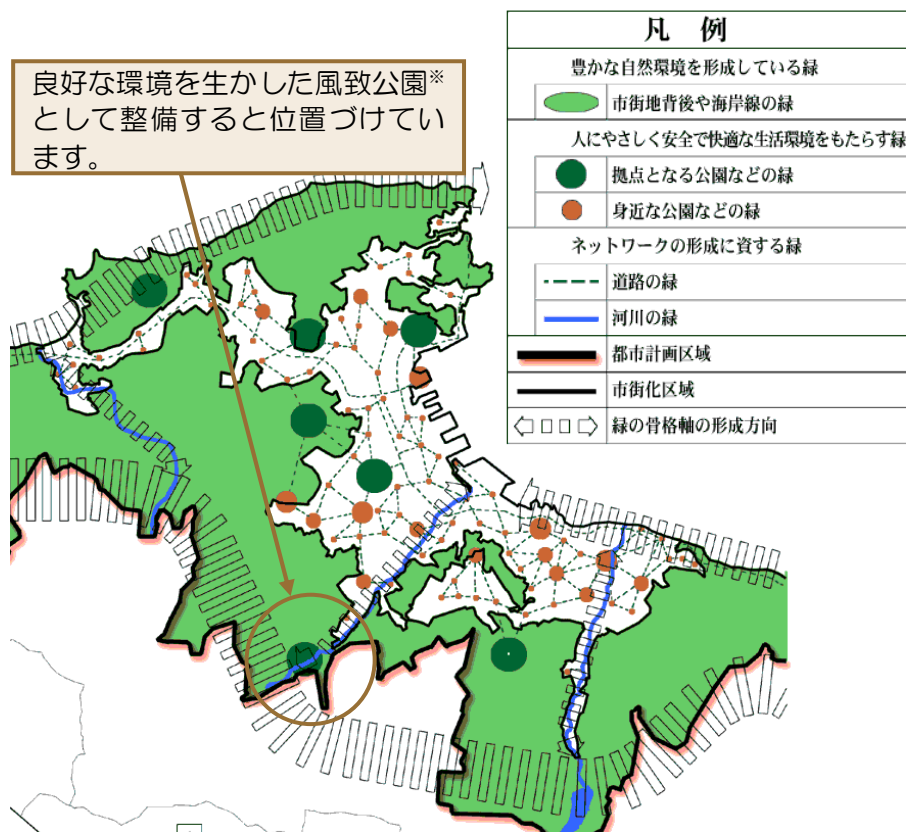
○計画期間：平成 10 年度～平成 32 年度

○基本理念

「市民と育む みどりあふれる、ゆとりあるまち小樽」

○緑の将来像

1. 人と自然が共生するまち
2. みどりが広がる安心・快適なまち
3. みどりを通して市民どうしがふれあえるまち

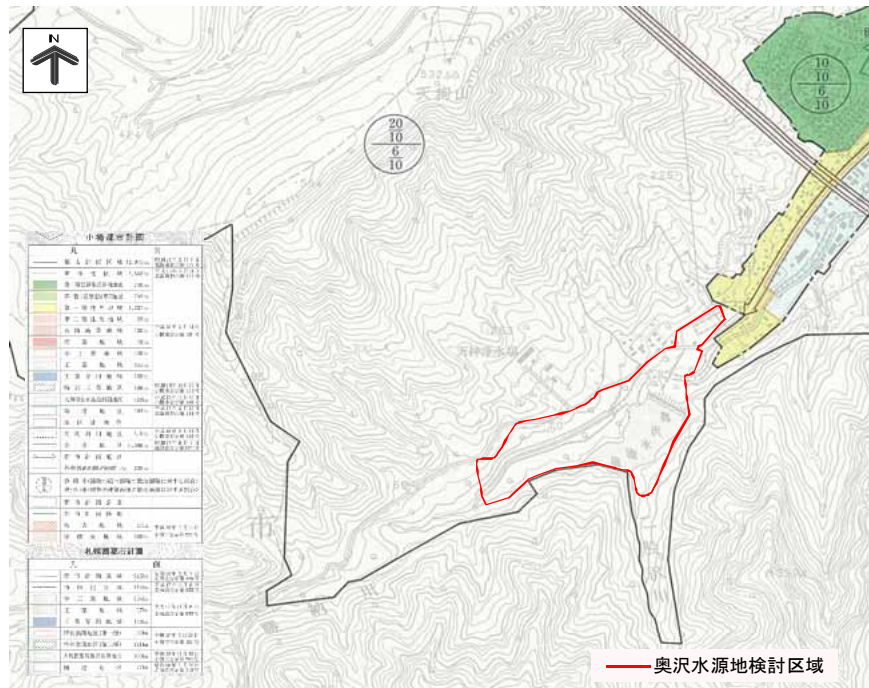


《緑の基本計画・緑の将来像》

※風致公園：良好な水辺地、樹林地の自然環境が残されている土地や、歴史的に意義深い土地などを一体として取り込んだ公園

④ 都市計画法

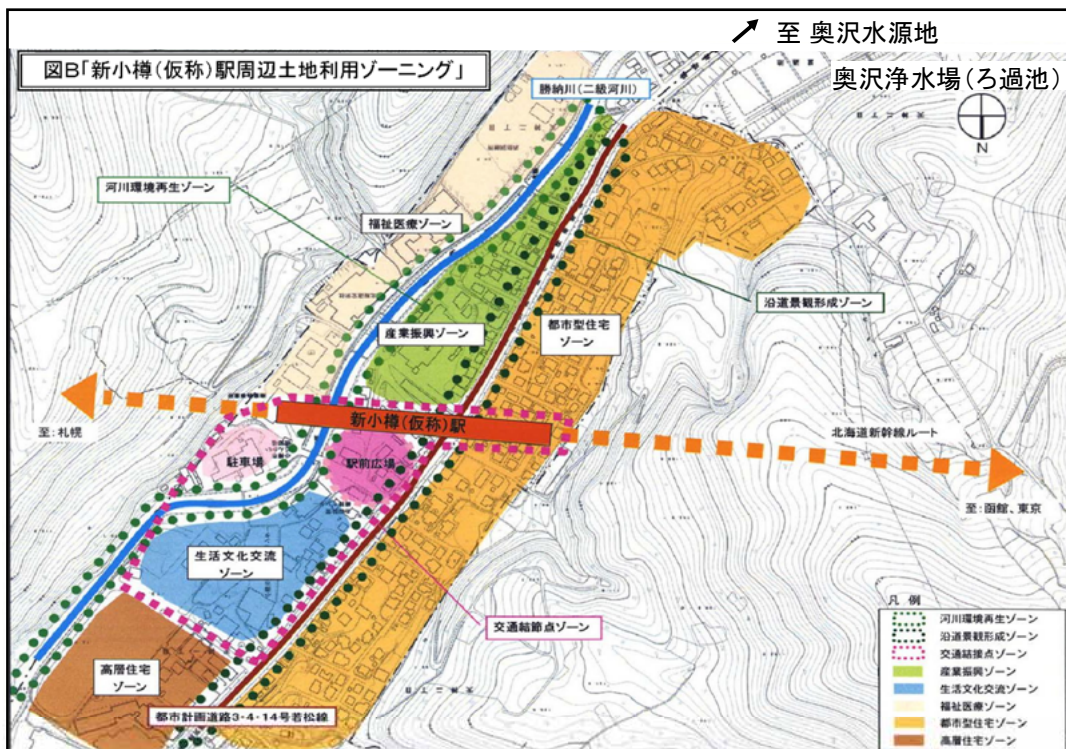
「奥沢水源地」は、市街化調整区域に指定されており、計画的な都市づくりや自然環境保護の観点から、原則として建物を建てることを制限しています。



《都市計画区域としての位置付け》

⑤ 北海道新幹線 新小樽(仮称)駅周辺整備構想

「奥沢水源地」の北側に、北海道新幹線駅が設置予定となっています。



注：方位は、図面下側が北になります。 出典：北海道新幹線 新小樽（仮称）駅周辺整備構想

《新小樽（仮称）駅周辺土地利用ゾーニング》

2. 奥沢水源地 保存・活用の課題

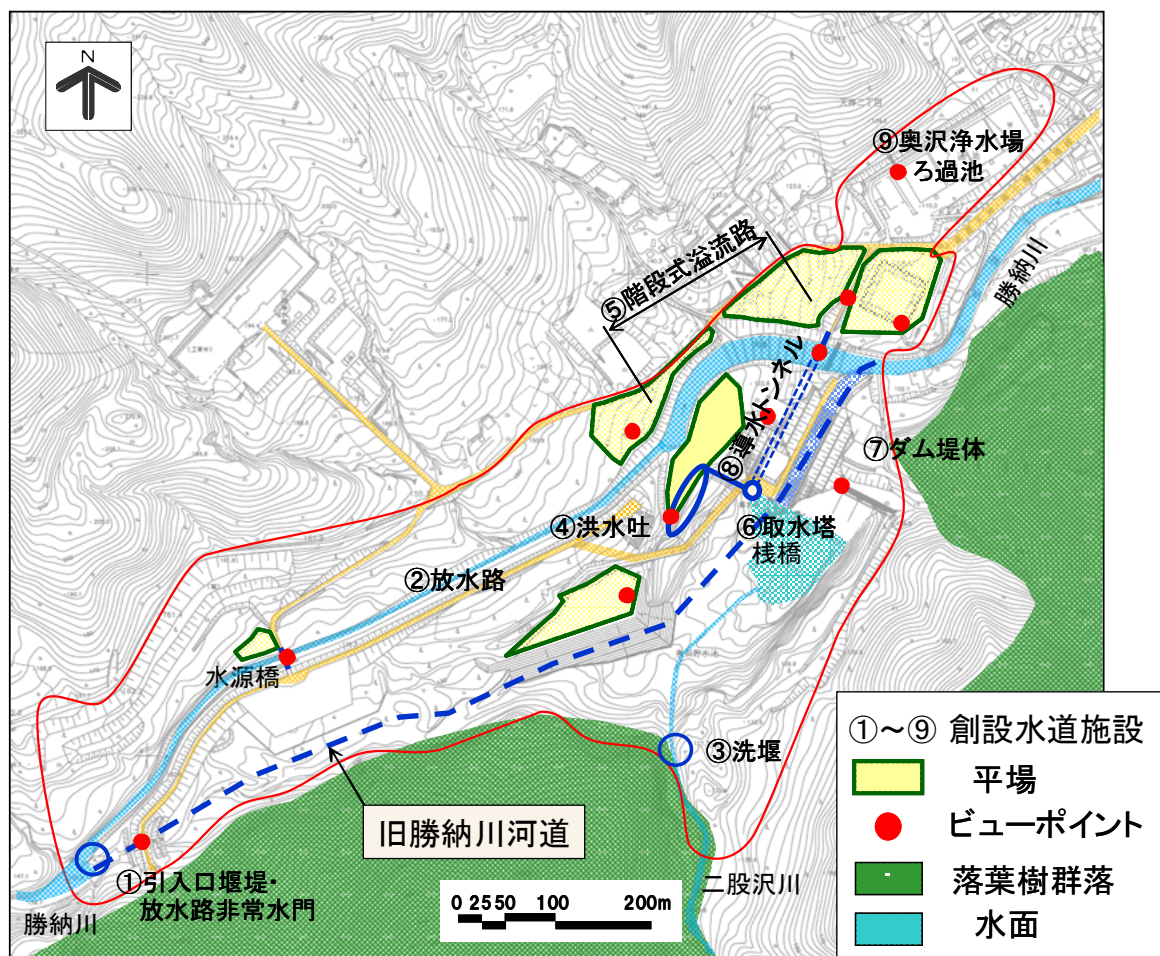
前項で整理した現況特性と、検討委員会が出された意見を踏まえて「奥沢水源地」保存・活用の課題を抽出します。

(1) 現況特性

「1. 奥沢水源地の現況」で整理した自然環境、土地利用、関連計画で確認された結果から、「奥沢水源地」には保存・活用に対し、以下の特性が導かれます。

現況特性

- 検討区域の北東部には、歴史的資産が集積しています。
- 検討区域内には、昔から使われている広場やダム堤体を掘削した土砂の置き場など、人が集まることが可能な平場が点在しています。
- 歴史的資産や自然景観を眺めるビューポイントが点在しています。
- 旧勝納川をはさみ、南側にはエゾイタヤなどの落葉樹林が群落しています。



《現況特性図》

(2) 検討委員会意見

「奥沢水源地 保存・活用検討委員会」では、以下のような意見がありました。

主な意見

①水源地の現状について

- 水道水ができる仕組みがここで分かり、価値があると思う。
- 自然景観が素晴らしい。
- 大正時代に造ったダムというよりは、貯水池の美しさ、水の音、水の流れなど、そこで水と親しんだ記憶がずっと残っている。
- 炊事遠足で利用したり、階段式^{いつりゅうろ}溢流路の下で泳いだ記憶があり、懐かしさを感じるとともに身近な存在であった。

②水源地の課題について

- ダムの堤体をV字状に掘削し、水路を設置したことで、大雨等に対する下流域の安全が確保されたことを明記した方がよい。
- これまでは水道施設として運営してきたが、今後、公園や交流の場として使っていく時に、河川等の安全対策も必要である。
- 人の利用を考慮すると、安全、安心な場としなければならない。
- 奥沢水源地の水道施設が、歴史的にも重要で価値がある資産だということを明確にしたい。
- 歴史的な価値のある取水塔などは、安全性を考えて残せば、自然と調和した施設になると思う。
- 水に関わった記憶を、どこまで、この整備の中で生かしていくかが大事なことだと感じる。
- 水源地に残っている施設をうまく利用し、水と関われる場所になってほしいと感じる。
- 古い水道施設をただ残すのではなく、何か工夫が必要である。
- 水の有難さを感じ、自然と調和させることが大事である。
- 水と触れ合える場としてほしい。
- 普通の公園ではなく、あえて、「水」、「水道施設」にこだわったほうがよい。
- 今後、人を近づける際には、鳥獣保護区など、自然とどのように調和させていくかを考えなければならない。
- 市民の交流の場として残していけると思う。
- 町内の人たちの気持ちを大事にしないと、地域に根ざした施設にならないので、奥沢で育った人たちの意見を生かした方がよい。

③水源地の活用等について

- 奥沢水源地の全容が学べる資料館のようなものがあるとよい。
- 博物館とのタイアップやスマートフォン等を利用して、施設の解説が表示される仕組みが考えられる。
- 施設の説明には、現地に掲示板や模型を設置するなど、水のできる仕組みをイメージできるような工夫が必要である。
- 現地の案内について、例えば資材庫を使用できるのであれば、壁面にパネルなどを展示するという方法もある。
- 子どもたちと一緒に森づくりができる場所になると思う。
- 森があるので、ウォーキングの場となる。

- 水がつくられる仕組みや森から酸素がつくられているということを、環境教育の中で子どもたちに伝えたい。
- 子どもたちが集まってくる、市民が寄りやすくなるような工夫が必要である。
- 散策路については、アスファルトで舗装するのではなく、ウッドチップを敷くなど、可能な限り自然に近い形で、安全な散策路を検討してほしい。
- ピクニックは、持ってきたお弁当を食べるというイメージが強いが、水と親しむという点では、子どもの頃に体験した炊事遠足ができればよいと思う。
- 炊事遠足などを行った市民の思い出の場所であるので、管理は難しいと思うが、火を使った炊事等ができる場所があればよい。
- トイレは、水洗トイレの整備と整備後の管理が重要である。
- 駐車場や資材庫については、木で隠すなどの工夫が必要である。
- 施設の維持管理に要する費用が大きくならないようにすることが大事である。
- 維持管理については、汚れていれば人の足も遠のくので、短期、中期で予算を確保して運営してほしい。
- 奥沢水源地における今後の計画や整備については、水道局が関係部局と調整して、今回の基本構想をうまく引き継いでほしい。

(3) 保存・活用の課題

「奥沢水源地」の歴史的資産の保存、ならびに周辺自然景観、環境を含めた活用に向けて、前述の「奥沢水源地」の現況、検討委員会での意見内容から、以下のように課題を抽出しました。

①歴史的資産をどのように保存・活用するか

課題 1 創設水道施設であったことを後世に伝承すること

課題 2 貯水池に水が満たされていた頃の面影を残すこと

②自然景観をどのように保存・活用するか

課題 1 自然景観を生かした利用のあり方を創出すること

課題 2 歴史的資産と自然景観の調和を演出すること

③市民の憩いの場をどのように創出するか

課題 1 来訪者が安心して利用できる場を創出すること

課題 2 公園緑地としての位置づけを踏まえた利用形態とすること